

古代米でおいしく楽しいまちづくり

～美原区古代米プロジェクト～



▲ドライフラワーとして見ても楽しめる古代米の稲穂



▲今年の春、黒姫山古墳北側の水田での田植え風景。大阪府立大と天野酒の協同開発によるピンク色のお酒「なにわの育み」用の「アサムラサキ」外3種の古代米を植えました。

緑 豊かな里山や田園が残り、区域の3割が農地である美原区。そして黒姫山古墳や河内鑄物師のふるさとである美原区の、魅力や特性を活かしたまちづくりがはじまっています。

古 代米プロジェクトとして、今年度「美原朝市」に参画されている地元の農家や「まちデザインひろば」のメンバー等、市民の皆さんと一緒に、黒姫山古墳周辺の水田で、古代米の田植えから収穫までを行っています。そして、つくるだけでなく…

特 産品開発として、古代米を使ったレシピ作りから販路開拓までをめぐし、こちらも、ヘルスマイト(食生活改善推進協議会美原支部)や美原あずき(JA女性会美原支部)のメンバー等、市民の皆さんと一緒に進めています。

古代米に関する商品開発に協力いただける企業を募集中!

美 原区では、ゆくゆくは、美原が堺市の観光名所の一つとなることも念頭に、これらの取り組みをとおして、美原区に愛着がわき、ふるさと美原を実感し、わがまちに愛着と誇りをもってもらえるようなまちづくりを目指していきます。

◎お問い合わせ 美原区役所 企画総務課(電話:072-363-9311)



古代米とは

赤米や黒米などの有色米で、見た目の美しさやヘルシーさが魅力のお米です。古代米の一種である「アサムラサキ」には、アントシアニンという抗酸化作用・抗ガン作用のある栄養素が含まれ、健康食として注目を集めています。



マット・モップ・清掃用具一式
レンタルします。見積り無料!
株式会社 **ダイキチ**

商品本部
〒597-0094 大阪府貝塚市二色南町2-11
Tel.0724-38-4500 Fax.0724-38-4455
南大阪営業所
TEL.0120-208005
FAX.0120-400894
担当窓口:松井 亮二

だれにでも守りたいものがある
だからこそ身近で手頃なセキュリティを
機械警備から総合メンテナンスまで…
〈安心と安全〉で確実な警備を提供いたします



東洋テック株式会社

〒590-0953 堺市堺区甲斐町東1丁目17号
南大阪支社/TEL.072-221-0753

堺歴史探訪

与謝野晶子と木

晶子は生涯に5万首もの歌を作ったといわれています。連載三回目は、その中でも木の葉や木の姿などに着目した歌をみてみたいと思います。短歌を通し、晶子の木に対する気持ちを探ってみましょう。

(1) 歌に詠まれた木々

晶子は、身近に見られる木から山や森で見られるような木まで幅広く着目し、歌にしています。まずは、その種類に富んだ歌の一端をみてみましょう。

【ヒノキ】 **こちよく高く風鳴る一もとの檜のもとを歩むあかつき**
(『青海波』明治45年)

【カシ】 **昔より檜の梢に住みなれし さますまことは遠き灯にして**
(『瑠璃光』大正14年)

【ナラ】 **湖畔より足尾におよぶ檜の 青白根につづく枯草の路**
(『心の遠景』昭和3年)

【ホオ】 **朴の葉の鷹の羽よりひろきをば 夕立打ちてこちよきかな**
(『心の遠景』昭和3年)

【ハン】 **浅みどり風にも散らんほのかなる はかなきいろの榛の一むら**
(『太陽と薔薇』大正10年)

【ハクモクレン】 **おほらかに此処を楽土となす如し白木蓮の高き一もと**
(『火の鳥』大正8年)

【エノキ】 **蟬涼し忍草生ひたる板屋根を 百尺低く見て立つ榎の木**
(『瑠璃光』大正14年)

また、明治45年(1912)、晶子は33歳の時に海外旅行を経験しました。その時に外国の地で出会った木も、晶子は歌に詠んでいます。

【マロニエ】 **歌の本絵の本たづねいつ立たん セエヌの畔マロニエの下**
(『心の遠景』昭和3年)

【アカシヤ】 **前に引くとばりの如く浅みどり アカシヤの木の中らぐぐれ**
(『夏より秋へ』大正3年)

晶子が木の高さや葉の色などに目を向け、木を美しい風景の一部としてとらえていることがわかります。

(2) 木に託された晶子の気持ち

晶子が木の葉や木の姿に思い出や願いを寄せた歌もあります。次に二首を取り上げてみましょう。

娘にて蔵と座敷の中庭におつる銀杏をながめつる秋
(『朱葉集』大正5年)

*訳:娘の頃は、蔵と座敷の中庭に落ちる銀杏を物思いにふけりながら見つめていた秋であったなあ

この歌は、晶子が娘のころをうたったものと思われます。当時の晶子は、和菓子商の生家の帳場で手伝いをしていました。忙しくする中、ふと中庭に舞い落ちる銀杏を見つけ、眺めていたという歌でしょう。仕事に追われた時間とは対照的に、時がゆっくりと流れるような一瞬であり、同時に、秋を感じた瞬間を思い出し、詠みこんでいます。

おとめ **少女たち開口の神の樟の 木の若枝さすごとのびて行けかし**
(『婦人公論』21巻6号 昭和11年)

*訳:少女たちよ、開口神社のクスノキの若い枝が芽生え伸びるように成長しなさいね

開口神社は晶子の生家近くにある神社であり、しばしば「大寺」という名で晶子の歌に登場します。クスノキの若くみずみずしい枝の様に重ねて、少女たちの健やかな成長を願っています。



現在の開口神社 ▶

今回は木をうたった歌を通して、そこに投影された晶子の気持ちをみてきました。この他にも、晶子は我が身と枯木を重ねた歌を詠んでおり、人の生きる姿に近いものを木に感じ取っていたようです。

美しい葉、空高く成長する幹、そして枯れ行く姿。木とは、晶子にとって魅力あふれる歌題の一つであったといえます。



▲「夏より秋へ」表紙 (堺市立中央図書館蔵)



▲自筆原稿「ふるさとの若き女性へ」冒頭 (堺市博物館蔵)

(堺市文化課学芸員・岡崎 智美)